

小学校を対象とした集中豪雨を対象とした防災教育カリキュラム（案）

1. 第3学年及び第4学年

（1）社会

目的：地域社会における災害と関係機関の働きと地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

授業方法：

- ① 地域の方から過去に起こった大雨による洪水や浸水の話聞く。
- ② 地域の方から子供のころの地域の様子（地形や土地利用）について話を聞き、災害との関係を考える。

2. 第5学年

（1）理科

目的：「天気の変化」と「流れる水の働き」の学習後、集中豪雨をテーマとして2つの課題を結び付ける授業を行う。

授業方法：集中豪雨に関するPPT教材を使った授業。

（2）総合学習

目的：冬の防災訓練に参加し、防災への関心を高める。

訓練内容：登校直後に大地震が発生したと想定し、以下の訓練を行う。

- ① 教室内における身の安全確保
- ② 運動場まで安全に避難する（避難ルート選択訓練）
- ③ 負傷者救護・運搬訓練、
- ④ 消防署（消防団、自主防災会）と一緒に消火訓練

3. 第6学年

総合学習

（1）防災マップ作り

目的：災害時の危険箇所を調べ、自分の身は自分で守る習慣を育成する。

指導方法：

- ① 防災マップの作成に関する事前学習
集中豪雨に見舞われたら、町はどうなってしまうのか？
- ② 防災まち歩き
・集中豪雨を想定し通学路を歩いて、危険箇所や避難できる所を探す。
・大雨以外の災害（地震等）も想定してもよい
- ③ 防災マップの作成
地図に調査結果をまとめる。
青：浸水危険箇所、水路、暗渠、アンダーパス、地下道、マンホール等
赤：ブロック塀、石造遺物、古い家屋等
緑：避難所、広場、高台、ビル、消防署、警察、病院、コンビニ等

（2）災害図上訓練

目的：防災マップをつかって、集中豪雨時の状況を想像し、適切に行動する力を育成する。

訓練方法：学校からの下校しようとしたとき、局地的な大雨が降って学校の周囲が浸水した。

- ① 気象情報の入手と活用
- ② 帰宅か避難かの選択訓練
- ③ 帰宅ルートを選択訓練

(3) 防災訓練

目的：集中豪雨時の状況を想像する力を育成する。

指導方法：学校からの下校しようとしたとき、局地的な大雨が降って学校の周囲が浸水しそうになったときの対応訓練。

- ① 土のうを作って水の浸入を防ぐ。
- ② ロープワーク
- ③ 救急救命訓練：意識の確認、気道確保、人工呼吸、胸部圧迫、AED

中学校を対象とした集中豪雨を対象とした防災教育カリキュラム（案）

1. 理科（第2分野）

（1）気象とその変化

目的：積乱雲の急速な発達による気象の変化のメカニズムを考えるようにする。また、天気の変化を予測する方法を調べる

授業方法：

- ① 集中豪雨に関するPPT教材を使った授業。
- ② 気象庁のホームページを閲覧して、天気の変化を予測する方法を調べる。

2. 総合学習

（1）冬の防災訓練（地震火災）

目的：冬の防災訓練に参加し、防災への関心を高める。

訓練内容：登校直後に大地震が発生したと想定し、以下の訓練を行う。

- ① 教室内における身の安全確保
- ② 運動場まで安全に避難する（避難ルート選択訓練）
- ③ 負傷者救護・運搬訓練、
- ④ 消防署（消防団、自主防災会）と一緒に消火訓練

（2）防災マップ作り

目的：災害時の危険箇所を調べ、自分の身は自分で守る習慣を育成する。さらに、地域の一員として災害時に支援できる素養を身につける。

指導方法：

- ① 防災マップの作成に関する事前学習
 - ・古い地形図や航空写真を使った過去の地形や土地利用の変遷の分析
 - ・行政のハザードマップを調べ、地域において想定される災害と危険箇所を把握する。
- ② 防災まち歩き
 - ・集中豪雨を想定し通学路を歩いて、危険箇所や避難できる所を探す。
 - ・大雨以外の災害（地震等）も想定してもよい
- ③ 防災マップの作成

行政のハザードマップを参考に調査結果をまとめる。

青：浸水危険箇所、水路、暗渠、アンダーパス、地下道、マンホール等

赤：ブロック塀、石造遺物、古い家屋等

緑：避難所、広場、高台、ビル、消防署、警察、病院、コンビニ等

（3）災害図上訓練

目的：防災マップをつかって、集中豪雨時の状況を想像し、適切に行動する力を育成する。

訓練方法：学校からの下校しようとしたとき、局地的な大雨が降って学校の周囲が浸水した。

- ① 気象情報の入手と活用
- ② 帰宅か避難かの選択訓練
- ③ 帰宅ルートの選択訓練

(4) 防災訓練

目的：集中豪雨時の状況を想像する力を育成する。

指導方法：学校からの下校しようとしたとき、局地的な大雨が降って学校の周囲が浸水しそうになったときの対応訓練。

- ① 土のうを作って水の浸入を防ぐ。
- ② ロープワーク
- ③ 要支援者の救援・運搬訓練
- ④ 救急救命訓練：意識の確認、気道確保、人工呼吸、胸部圧迫、AED

行政担当者・教員・自主防災会を対象とした

集中豪雨を対象とした防災教育カリキュラム（案）

1. 防災リテラシー教育

（1）気象とその変化

目的：積乱雲の急速な発達による気象の変化のメカニズムを考えるようにする。また、天気の変化を予測する方法を調べる

授業方法：

- ① 集中豪雨に関するPPT教材を使った授業。
- ② 気象庁のホームページを閲覧して、天気の変化を予測する方法を調べる。

2. 防災コンピテンシー教育

（1）防災マップ作り

目的：災害時の危険箇所を調べ、自分の身は自分で守る習慣を育成する。さらに、地域の一員として災害時に支援できる素養を身につける。

指導方法：

- ① 防災マップの作成に関する事前学習
 - ・古い地形図や航空写真を使った過去の地形や土地利用の変遷の分析
 - ・行政のハザードマップを調べ、地域において想定される災害と危険箇所を把握する。
- ② 防災まち歩き（省略してもよい）
 - ・集中豪雨を想定し通学路を歩いて、危険箇所や避難できる所を探す。
 - ・大雨以外の災害（地震等）も想定してもよい
- ⑤ 防災マップの作成

行政のハザードマップを参考に調査結果をまとめる。

青：浸水危険箇所、水路、暗渠、アンダーパス、地下道、マンホール等

赤：ブロック塀、石造遺物、古い家屋等

緑：避難所、広場、高台、ビル、消防署、警察、病院、コンビニ等

（2）災害図上訓練

目的：防災マップをつかって、集中豪雨時の状況を想像し、適切に行動する力を育成する。

訓練方法：学校からの下校しようとしたとき、局地的な大雨が降って学校の周囲が浸水した。

- ① 気象情報の入手と活用
- ② 帰宅か避難かの選択訓練
- ③ 帰宅ルートを選択訓練

（3）防災訓練

目的：集中豪雨時の状況を想像する力を育成する。

指導方法：学校からの下校しようとしたとき、局地的な大雨が降って学校の周囲が浸水しそうになったときの対応訓練。

- ① 土のうを作って水の浸入を防ぐ。
- ② ロープワーク

- ③ 要支援者の救援・運搬訓練
- ④ 救急救命訓練：意識の確認、気道確保、人工呼吸、胸部圧迫、AED

集中豪雨を対象とした小学校における防災教育プログラム（案）

1. 第3学年及び第4学年

(1) 社会【1時間】

地域社会における災害と関係機関の働きと地域の人々の工夫や努力を考え学ぶ授業。

2. 第5学年

(1) 理科【1時間】

「天気の変化」と「流れる水の働き」の学習後、集中豪雨をテーマとして2つの課題を結び付ける授業。

(2) 総合学習【2時間】

冬の防災訓練への参加により、防災への関心を高める授業。

3. 第6学年：

総合学習【5時間～8時間】

(1) 防災マップ作り

災害時の危険箇所を調べ、自分の身は自分で守る習慣を育成する授業。

- ・地域の災害特性の事前学習【1時間】
- ・地域の危険箇所・避難所等の現地調査【1～2時間】
- ・防災マップ作り【1～2時間】

(2) 災害図上訓練【1時間】

防災マップを使用し、集中豪雨時の状況を想像し、適切に行動する判断力を育成する授業。

(3) 防災訓練【2時間】

集中豪雨時の状況を想像する力を育成し、適切な行動を行なえる能力を育成する授業。

集中豪雨を対象とした中学校における防災教育プログラム（案）

1. 理科（第2分野）

(1) 気象とその変化【1時間】

積乱雲の急速な発達による気象の変化のメカニズム、天気の変化を予測する方法に関する授業

2. 総合学習【11時間】

(1) 冬の防災訓練（地震火災）【2時間】

冬の防災訓練に参加し、防災への関心を高める授業。

(2) 防災マップ作り【6時間】

災害時の危険箇所を調査し、自分の身は自分で守る習慣を育成するとともに、地域の一員として災害時に支援できる素養を習得する授業。

- ・地域の地形、土地利用の変遷の調査【2時間】
- ・地域の現在の様子の調査【2時間】
- ・防災マップ作り【2時間】

(3) 災害図上訓練【1時間】

防災マップを使用し、集中豪雨時の状況を想像し、適切に行動する判断力を育成する授業。

(4) 防災訓練【2時間】

集中豪雨時の状況を想像する力を育成し、適切な行動を行なえる能力を育成する授業。

行政担当者・教員・自主防災会を対象とした集中豪雨に対する防災教育プログラム(案)

1. 防災リテラシー教育【1時間】

(1) 気象とその変化

積乱雲の急速な発達による気象の変化のメカニズムを知る。また、天気急変を予測する方法等を調査する講義。

2. 防災コンピテンシー教育【6～8時間】

(1) 防災マップ作り【3～5時間】

災害時の危険箇所を調査し、自分の身は自分で守る能力を養成する。さらに、地域の一員として災害時に支援できる素養を習得する。

- ・ 防災マップ基礎調査【1時間】
- ・ 現地調査【2時間】(省略可)
- ・ 防災マップ作り【2時間】

(2) 災害図上訓練【1時間】

防災マップを使用し、地域における集中豪雨時の状況を想定し、適切に行動する能力を養成する訓練。

(3) 防災訓練【2時間】

集中豪雨時の状況を想像する力を育成し、状況に応じた防災対策技術の修得を行なう訓練。